

認定 NPO 法人人と動物の共生センター

「動物専用避難所の全国的な開設及び普及」事業 評価会議（全 3 回）総括レポート

作成日：2022 年 3 月 31 日

作成者：小池達也

（一般社団法人よだか総合研究所 理事／認定 NPO 法人人と動物の共生センター 監事）

目的

認定 NPO 法人人と動物の共生センター（以下、当法人）は、2020 年 10 月から全国動物避難所 MAP プロジェクト（以下、本プロジェクト）を開始した。このプロジェクトは、災害時の飼い主やペットの避難行動をサポートするために、ペット防災カレンダーや動物避難所 WEB サイトの開発・作成、動物避難所運営のガイドラインや研修プログラムの開発・運用など多様な事業に取り組むものである。本プロジェクトの運営チームには、当法人の役員・会員・事務局スタッフ等のメンバー以外の多様なステークホルダーが主要なメンバーとして参画しており、当法人からスピンアウトした活動主体として、NPO 法人全国動物避難所協会を 2021 年 9 月に設立した。また、日本財団からの助成を受けて、2020 年 10 月 20 日～2022 年 3 月 31 日の間、「動物専用避難所の全国的な開設および普及」事業を実施した。

本プロジェクトにおいては、立場や専門分野の異なる人々が、異なる関心や問題意識や利害関心を持ちつつも、主体的に参加している。本プロジェクトの目的を達成するためには、①受益者のニーズや問題構造を正確に把握した上で、②論理的な整合性を持つ事業—短期的成果—長期的成果のロジックモデルを設計し、③短期的な目標到達度を高めつつ、④社会の変化や新たな発見など必要に際した場合にはロジックモデルや成果指標、事業の目標自体を修正し、⑤同時に運営チーム（さらには母体となる当法人）の持続可能性や発展性を高めるためのステークホルダーマネジメントを行うことが必要である。以上 5 点について、各自の知見や経験を共有・フィードバックすることで、学びや改善を生み出すための場が必要であると考えた。そこで、上述の助成事業において、全 3 回の評価会議を実施した。

実施内容

評価会議は、参加者である NPO 法人全国動物避難所協会の理事メンバーの自己評価を引き出す場として実施され、レポート作成者が進行役を務めた。

2020 年 12 月に実施した評価会議#1 では、価値軸の特定、ニーズ評価、セオリー評価の 3 点をテーマに、オンラインでのワークショップを実施して、多様な視点や価値観(=評価)を可視化させた。ロジックモデルを作成し、成果指標を設定した。

2021 年 8 月に実施した評価会議#2 では、現時点でのプロジェクト全体の進捗状況を共有し、具体的な時間軸に基づいて、社会的価値と各メンバーの相利性を最大化するための評価を行うことを目的として実施し、「ステークホルダーの自由な活動と、団体が掲げる社会的使命が求める活動の、重ね合う領域をどのように増やしていくか」というステークホルダーマネジメントを考えた。

2022 年 3 月に実施した評価会議#3 では、本事業がもたらした外的変化・内的変化を総括しつつ、更に今後プロジェクトや法人自体を発展させていくために、どのような学びや変化が期待できるかを議論した。

評価会議#1 より：目指す価値基準

参加者の各自が、本プロジェクトを通じて実現したい価値基準について発言し、共有した。

- ・ 飼い主も、飼い主以外の人、ペット自身も、誰もが安心して避難できる環境がある。
- ・ 飼い主以外の人に、ペットが人間に必要な存在として理解されること。
- ・ 動物避難所に関するネットワークができること。
- ・ 避難所の選択や開設を、行政任せではなく、市民一人ひとりが考えるようになること。
- ・ 避難所の選択や開設をサポートする資源が生まれること。
- ・ 動物避難所以外の多様なマイノリティニーズに応える避難所が生まれること。

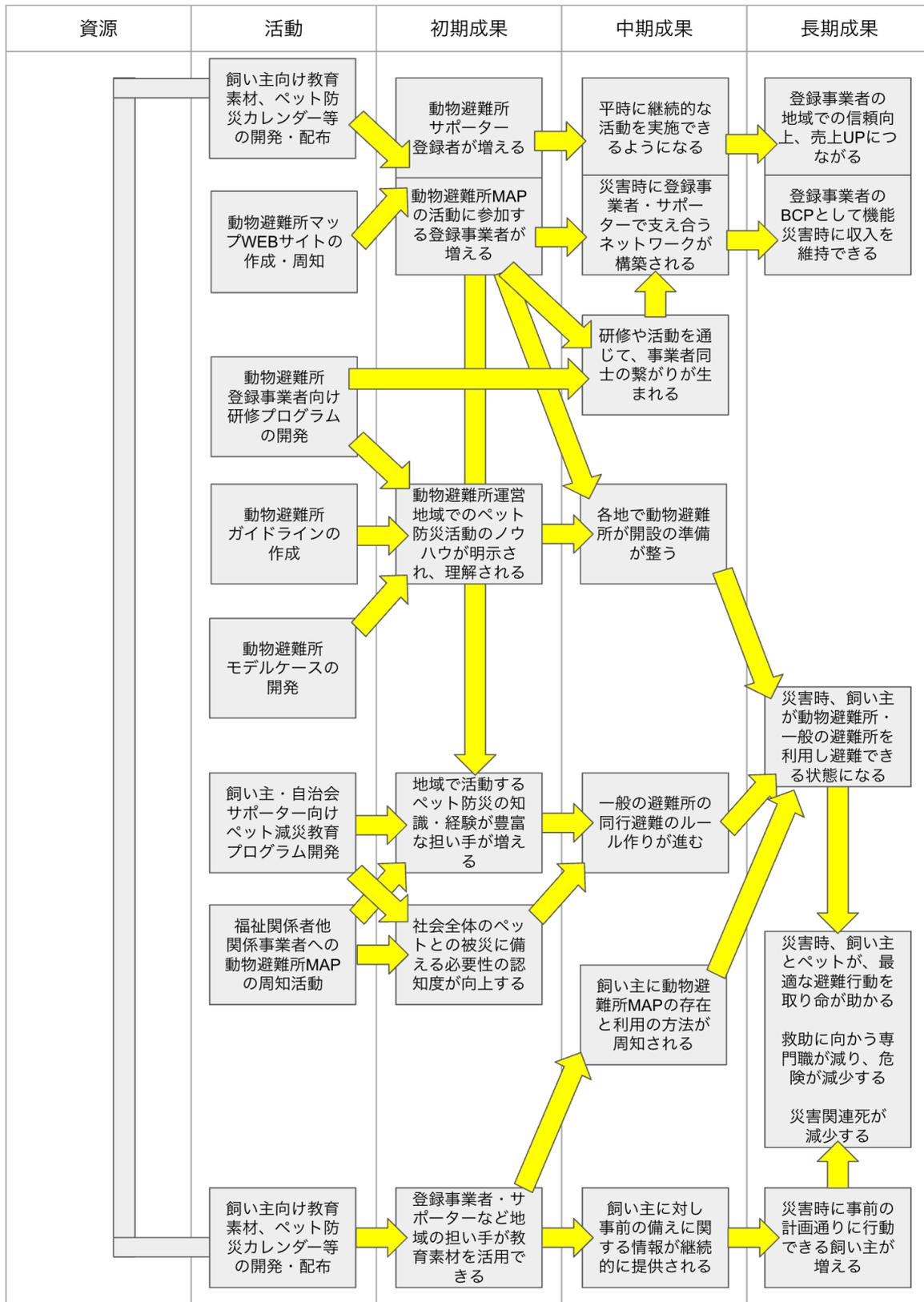
※価値基準：物事を評価する際の判断基準。何に基づいて評価するか。ゴール目標や評価指標とは別。

※評価会議#1 で挙げられた意見の例です。

評価会議#1 より：成果指標

「解釈にズレがなく、明確に事業の成果として定義できる」という視点から、サポーターの登録数・事業所の登録数を重要成果指標 (KPI) として置くことに、メンバー間で合意した。なお、事業終了時点での登録数は 13 件、応援団数は 205 人であった。

評価会議#1 より：ロジックモデル



評価会議#2 より：相互利益の確認

参加者の各自が、本プロジェクトを通じて個人的に実現したいゴール目標について発言し、共有した。

- ・動物避難所の登録件数を増やしたい。
- ・SDGs 関連のイベントに出展したい。
- ・ペット防災手帳を活用したい。講座も開催したい。ペット防災の日を広めたい。
- ・ペット防災に関するイベントを開催したい。
- ・高齢者防災とペット防災の問題は重複している。紹介できるサービスや講座が欲しい。
- ・ペット防災はボランティアに頼っていて、予算がどこにも計上されていない。事例を研究し、学会に発表し、世論に働きかけ、業界を変えていきたい。
- ・ペット避難所に関して、複数の学ぶ場を横断して情報収集と発信する役割を担いたい。

※評価会議#2 で挙げられた意見の例です。

評価会議#3 より：成果

参加者の各自が、本プロジェクトを通じて個人的に「できてよかった、嬉しい」と感じたことについて発言し、共有した。

- ・説明会に多様な人が参加してくれて、生の声を聞くことができた。一般の飼い主や、遠方からの参加もあった。嬉しかったし、驚きだった。
- ・講演に呼ばれることが増えてきた。動物関連業種への危機管理意識が進んできた。
- ・WEBサイトを開設し、法人を作り、説明会を実施できた。多くの人が協力してくれている。これから活動していく上での下地ができた。
- ・関わる人たちの顔ぶれが具体的に見えてきた。ネットワークが具体化し始めている。被災時にも役に立てることができる。
- ・自ら啓発窓口として登録することができた。他の人の役に立つことができた。
- ・本プロジェクトでの経験を通じて、自分の地域の課題がより具体的に見えてきた。
- ・専門家でなくても自分ごととして参加し、貢献できる、ということが感じられた。

※評価会議#3 で挙げられた意見の例です。

評価会議#3 より：今後の課題

参加者の各自が、本プロジェクトを通じて個人的に「できなかった、モヤモヤ」と感じたことについて発言し、共有した。

- ・説明会の参加者の中には、実践ではなく学びの場に近い関心を持っている人が多くいた。今後は、そうした人向けの場づくりが必要なのか。参加した人が、思っていたのと違ったと思わないために、どうすればいいか。
- ・コロナ禍以前と比べて、ペットの同行避難の認知度が下がっている。新規の飼い始めた人向けのペット防災活動も進める必要がある。
- ・災害以前に何をすればいいかが確立されていない。仕組み化やパッケージ化が必要。
- ・啓発窓口になっている人や、動物避難所として登録している人が、活動を継続していくための仕組みがあったほうがいい。
- ・マニュアルやテキストやガイドラインをゴールにせず、具体的に機能する繋がりや関係性を築いていくことが重要。
- ・ペット防災の話は、意識の高い人向けに陥りがち。飼っていない人にも同時に啓発を進めていくのがすごく大切だと思う。
- ・事務局にマンパワーが足りていない。素敵なアイデアはいっぱいあるけど、全て実行していくには人手が必要。なんでも事務局任せにはできない。

※評価会議#3 で挙げられた意見の例です。

評価会議#3 より：学び・教訓

参加者の各自が、本プロジェクトを通じて個人的に得た「学び・気づき・発見・教訓・大切なこと」について発言し、共有した。

- ・災害が起こった時にどう動くかを考えて、準備しておく必要がある。
- ・メンバーの担当を決め、具体的に動いていくことが必要。
- ・動物の命を守ることに興味がない人へ、どうやって届けるかを真剣に考えることが必要。
- ・言葉を整理して、理解を深めた上で使うことが大切。
- ・説明会に参加しない人たちに伝わるような機会を作っていきたい。
- ・ただでさえリソースが少ないので、一般の人に伝え続けるとエネルギーが分散する。ネタを提供するような役割を担うことが重要ではないか。

※評価会議#3 で挙げられた意見の例です。

以上